



ご挨拶

川崎市テニス協会
会長 高瀬 健二

川崎市テニス協会が昭和31年に設立され、創立50周年を迎え、ここに記念事業の一環として、50周年記念誌を発刊できますことは、誠にご同慶にたえません。

これもひとえに、歴代会長をはじめとする多くの役員ならびに加盟団体関係役員の方々の献身的なご努力と、神奈川県テニス協会、川崎市体育協会ならびに行政当局のご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

この間、高度成長時代、バブル経済の崩壊そしてその後のデフレなど、それぞれの時代を背景に、テニス界をとりまく環境も大きな影響を受けてまいりました。最近では、産業構造の変化・工場移転による実業団の減少、より高い利益をもとめ或いは相続による廃止など民間クラブの減少による、加盟団体の減少が続いておりましたが、これらに対処し、生涯スポーツとしてのテニスを楽しむ人達を組織化するため、同好会の加盟を認め、加盟団体数の減少に歯止めをかけるとともに底辺の拡大を計ってきました。

50周年の節目にあたり、設立から現在まで、先輩諸氏がそれぞれの時代の変化に対応しながら、協会発展に尽力された歴史を振り返るとともに、それを糧とし、改めてこれからの10年がいかにあるべきか、競技力向上とともにコミュニティスポーツとしてテニスの普及発展に、時代の変化を見極めた新しい活動が必要だと考えております。

川崎市テニス協会は中野元会長のご尽力により市内5事業所の加盟で設立されました。そして設立と同時に、市民大会（個人戦）と事業所対抗戦（団体戦）をメインの両輪として開催し、その時代のニーズに合わせて昭和33年には川崎ジュニア、昭和43年には部課長テニス大会、昭和58年には家庭婦人テニス大会などを加え、現在行われている多くの事業がその時代に始められました。

平成10年の神奈川ゆめ国体には、テニス競技の誘致に特別の情熱を傾けられ、川崎市での開催を夢見ておられましたが、平成3年11月、ご自分の目で見ることなくお亡くなりになられたことは、さぞかし心残りであったと思います。平成9年の国体運営のリハーサルとしての全日本都市対抗テニス大会と平成10年の本大会には、神奈川県テニス協会、本協会の役員並びにボランティアの皆さんが競技運営を担当し、組織とチームワークで成功を取めることが出来ました。このことにより、中野元会長の功績に少しでも報いることが出来たとすれば幸いです。

景気が堅調に推移しているとの観測が高い中ではありますが、テニスを取り巻く社会環境は依然として厳しい状況にあります。テニス川崎のさらなる発展を期し、役員一同努力して参ります。関係各位のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。